

## 平成 29 年度 高齢者支え合いコミュニティ支援事業団体

行政区概要			
組織名	二枚橋・須萱行政区	代 表	行政区長 川井 吉夫 (かわい きちお)
地域 (市町村)	相双・いわき (飯舘村)	加入世帯数 (人数)	398 世帯 (245 名)
<p>(1) 自治会の主な活動 見守り活動 (訪問活動)、健康づくり活動 (介護予防等)、地域づくり活動 (防災関係)</p> <p>(2) 自治会の特徴 飯舘村は県の北部の中通りと浜通りを分ける場所に位置している。東日本大震災後、村の全域が計画的避難地域に指定されるも、一部地域を除いて 2017 年 3 月に指定が解除され、二枚橋・須萱行政区もその地区に含まれる。震災以前は、子供会育成会・老人会等の各組織が機能し、行政区全体でのイベントや取り組みを行っていたものの、現在は改めてその在り方を再構築するの時期をむかえている。</p> <p>(3) 今年度実施事業 二枚橋・須萱高齢者支援支え合いコミュニティ支援事業</p> <p>(4) 事業の主な活動内容 (具体的活動は上記の主な活動に同じ)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 見守り活動 (訪問活動) : 帰村した高齢者の安否確認や地域とのつながりを継続的に行う</li> <li>② 健康づくり活動 (介護予防等) : 定期的に集会所においてミニデイサービス等を実施し、介護予防に努める</li> <li>③ 地域づくり活動 (防災関係) : 地域内の巡回活動などを実施する活動を行う</li> </ol> <p>(5) 本活動を実施することの背景 飯舘村村内でも帰村率が高い本地域において、高齢者が相互交流する機会の設定やその見守り活動が課題となっていたことから、本事業を実施することで高齢者の生きがいがづくりへと繋げていきたい。</p> <p>&lt;横のつながりが地区の未来へとつながっていく&gt;</p> <p>二枚橋・須萱行政区は、もともと住民同士のつながりが強い地区である。震災以降バラバラに避難していた住民が少しずつ帰村し、もとの地域のつながりを軸に「住民同士の支え合い」を進めていこうとしているのが現状である。区長の川井さんは、「震災後、同級生たちが自分と同じように村に戻ってくる中で、人数は 6~7 人と少数ではありますが、その同級生たちと同じ方向を向いて進めていけることが自身の原動力となっています」と話される。</p> <p>今年度まず取り組んでいるのは、帰村した高齢者の所へ直接出向く見守り活動である。顔のつながりがある町民が、日中一人では出歩けない高齢者宅へ訪問し、世間話をして顔を見せ合いながら地域全体で高齢者を支えている。</p> <p>帰村率が高い地区ではあるが、避難されている住民もまだまだ多い。その避難されている住民を行政区として、今後どのように支援していくかが今後の課題である。難しい課題ではあるものの、つながりが強く・同じ考えをもった方々が、飯舘村の将来と共に少しずつ歩んでいきたいとのことであった</p>			

## 活 動 内 容

- ① 11月の下旬に地域の高齢者宅に出向き、「地域で見守り活動をしますよ」と一人一人伝えながら訪問した。



- ③ 行政区長の川井吉夫さんは「厳しい状況ではありますが、地域の気持ちを一つにして進んでいきたい」と話された。



- ② 12月上旬、地域の伝統行事「縄もじり」を震災以降初めて町民が集まり実施した。その際に全世帯分のしめ縄を作成し、全戸配布を行った。

